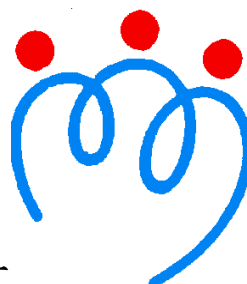


2018 年度

ミラークよこすか

事業報告

社会福祉法人 電機神奈川福祉センター



目次

1. 事業の概要

- (1) 目的 3p
- (2) 法人設立と施設設置の経緯 3p
- (3) 施設概要 3p
- (4) 2018 年度事業目標と年度末事業結果 4p

2. 2018 年度事業報告

(1) 就労移行支援事業

- ① 利用者の状況 6p
- ② 訓練プログラム 8p
- ③ 新プログラムの導入 14p
- ④ 就労支援 15p

(2) 就労定着支援事業 16p

3. 2019 年度事業目標 18p

1. 事業の概要

(1) 目的

障害を持つ人が社会自立できるよう支援する。

(2) 法人設立と施設設置の経緯

1972 年、電機連合神奈川地方協議会（以下、地協と呼ぶ。）は、第 20 回定期大会において、労働組合としては全国に先駆けて障がい福祉活動を開始した。地協は、神奈川県内の電機・電子・情報機器関連産業に働く組合員で組織された産業別労働組合である（2015 年 3 月末現在 109 単組・支部、組合員数 75,736 人）。障害をもつ人も「ともに学び、遊び、育ち、働き暮らせる社会」を目指した障がい福祉活動は、国際障害者年の理念でもある「ともに生きる社会づくり」への大きな潮流につながった。

この活動を 20 年にわたり続けてきた間に、障害をもつ子どもたちの育ち学びあう場は広がり、選択できるようになってきた。しかし、学校卒業後の進路は依然として厳しい状況が続いていた。

そこで、地協の障害福祉活動のさらなる展開として、1991 年に「電機神奈川福祉センター設立準備委員会」を設置し、1995 年 3 月に神奈川県より社会福祉法人の認可を受けた。

1996 年には「ぽこ・あ・ぽこ」が事業を開始（「横浜南部就労援助センター」は法人設立前（1992 年）に事業を開始）し、これまで横浜、川崎、湘南地域で、障害者の社会自立や一般就労を中心に支援を行ってきた。

2013 年に新たな事業展開を検討し、横須賀地域での障害福祉サービス事業所開設に向けた調査を開始した。2014 年 10 月には「横須賀新事業所開設準備室」が設置され、2015 年 1 月 1 日に「ミラークよこすか」が事業を開始した。

(3) 施設概要

【事業所指定】 （2015 年 1 月より） ● 法的根拠：障害者総合支援法 ● 事業指定者：横須賀市長 ● 事業所番号（サービス種類）：1411901760 [就労移行支援事業・就労定着支援事業] 2017 年 4 月 1 日：自立訓練事業（生活訓練）廃止、就労移行支援事業増員 2018 年 7 月 1 日：就労定着支援事業開始 ● 指定日・事業開始日：2015 年 1 月 1 日 【利用対象者】 ● 原則として 65 歳未満の知的障害者・精神障害者 ● 定員：就労移行支援事業 20 名（2017 年 4 月 1 日変更）			
所在地	横須賀市大滝町 2-15-1 横須賀東相ビル 6 階		
交通機関	京浜急行線 横須賀中央駅より徒歩 4 分		
Tel	046-821-3450	Fax	046-887-0480
開設年月日	2015 年 1 月 1 日		
建物構造	鉄筋コンクリート造 9 階建（横須賀東相ビル内）		
面積	専用部分 219.17 m ²		
設備内容 （共用部分）	食堂・訓練室 1・訓練室 2・男性ロッカー・女性ロッカー・倉庫・事務室・相談室・ （男性トイレ・女性トイレ・給湯室）		

(4) 2018 年度事業目標と年度末事業結果

平成 30 年度目標	平成 30 年度 事業報告
重点目標	
● 就労定着支援事業を開始するとともに、事業実施のため行政機関との調整や対象者への丁寧な説明を行います。 ● 平成 31 年度に安定経営を実現することを目指し、平成 30 年度は広報活動とネットワーク拡大に向けた活動を重点的に実施します。 ● 年度内の第 3 者評価の受審に向け、利用者・ご家族等に理解を得るとともに、準備を滞りなく行います。	● 7 月に就労定着支援事業を開始しました。また、なるべく多くの方にご参加いただくため、定着支援事業該当者（ご家族含む）に対し事業説明会を 4 回開催しました。年度内に対象となる方全員に定着支援事業をご利用いただいています。 ● 横須賀三浦地域、横浜南部地域を中心に広報活動を実施しています。平成 31 年 4 月には利用者数が定員を超える見込みです。 ● 第 3 者評価を受審し、高い評価を受けています。
1) 就労移行支援事業（20 名定員）	
● 新規利用者 12 名を受け入れます。 ● 1 日あたりの平均利用者数 15 名を目指します。 ● 年間 8 名の就労者を輩出します。 ● 8 名の利用者に施設外実習の機会を提供します。 ● 障害者就業・生活支援センターやハローワーク等と連携しながら、横須賀・三浦地域での職場開拓に取り組みます。 ● 就労後を見越した支援として、支援プログラム内で就労定着支援事業の概要説明等を実施します。	● 13 名の新規利用者を受け入れました。 ● 1 日あたりの平均利用者数は 12.9 名に留まりました。 ● 9 名の就労者を輩出しました。 ● 11 名の利用者に施設外実習の機会を提供しました。 ● これまでに就労実績がない企業への就職は 5 件となり、内 3 件は横須賀市内の就職先でした。 ● 就労決定時のご家族同席面談の内容に就労定着支援事業を追加しました。また、現段階では個別の対応ですが、就職活動関係のプログラムや講座の中で定着支援事業の説明を取り入れました。
2) 就労定着支援事業	
● 就労定着支援事業の事業内容等を早期に把握し、滞りなく事業実施をします。また、就労前や就労開始時を中心に対象者・ご家族等へ丁寧な説明を行い、事業内容をご理解いただけるよう努めます。 ● 就労後 1 年間の定着率 90%以上を目指し、ご本人、企業と連携するとともに丁寧な支援を心がけます。 ● 同窓会を始めとした就労定着支援者を対象としたイベントの開催方法を検証します。	● 所管である横須賀市と打ち合わせをしながら、7 月 1 日より事業を開始し、横須賀市で最初の就労定着支援事業所となりました。事業開始にあたり全体説明会を 4 回実施し、不参加の対象者には別途説明の機会を設けるなどし、対象者全員に事業内容にご納得いただき契約を締結しています。 ● 年度内の就労者の内 1 名が離職しました。年度内に就職から 1 年を経過する就労者の定着率は 100%でした。 ● 就労者を対象とした食事会を 3 回開催し、いずれの回も参加率は約 80%と高い参加率を維持することができています。

3) 運営全体

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 新規利用者獲得に向けて近隣の普通高校等を訪問し、新たなネットワーク構築を図ります。 ● 学校や特定の支援機関等、対象を絞った事業所見学会の開催を検討します。 ● ポータルサイトを活用した広報活動に着手し、利用者獲得や知名度向上を図ります。 ● 日々のミーティング等で、支援や苦情内容の振り返りを行い、事業所としての支援の在り方を適宜検証していきます。 ● 年間 15 名以上の実習生を受け入れます。 ● 事業所内における災害ゼロを目指し、職員・利用者共に安全に対する意識向上に努めます。 ● 支援スキル向上や定着支援事業を始めとする制度知識の習得、並びに業務遂行スキルの全体的な向上のため事業所内研修を実施します。また、経験年数や役職に応じて個別にフォローアップや成長の機会を職員に提供します。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 三浦半島並びに近隣地域の相談支援機関を中心に 24 か所を訪問し、事業所の状況説明を実施しました。普通高校への訪問は先方の都合等により実施に至りませんでした。昨年度訪問した学校からの教員見学を実施しました。 ● 訪問活動により多くの情報交換が行えたこと、支援プログラム充実が年度内の優先事項であると判断したことから、他の方策に注力することとしました。 ● 株式会社 LITALICO が運営する情報サイト「仕事ナビ」への広告掲載を開始しました。 ● 日々のミーティングに加え、就労移行支援事業の全利用者のケース会議を毎月実施し、支援の方向性や現状確認を行いました。 ● 学校、相談機関、ご本人など、様々なルートでのお問い合わせから 34 名の実習生を受け入れました。 ● 大きな事故、怪我などの災害は発生しませんでした。 ● 障害者雇用促進センターからの講師派遣による精神・発達障害に関する研修並びにキャリアパス対応等の研修を新任職員中心に受講しました。また、精神障害者を対象とした就労移行支援事業所での体験実習を実施しました。
支援プログラム改定の打ち合わせ等で部署内研修の開催が困難なため、職員個別に延べ 15 件の外部研修を受講しました。 |
|---|--|

2. 2018 年度事業報告

(1) 就労移行支援事業

① 利用者の状況

前年度（2017 年度）に就労者数 12 名と多くの就労者を輩出した影響もあり、2018 年 4 月は昨年度を下回る利用者数となった。

年度内に新規に利用を開始した方は 13 名と昨年度を上回っており、年間を通してコンスタントに新規利用者を受け入れている。就労者数は 9 名と昨年度を下回ったが、体調不良など就労以外での退所が 4 名と昨年度を大きく上回ったため年間の退所者は昨年度と同数となっている。

1 日あたりの平均利用者数は 12.9 名と定員を大きく下回る結果となった。下期に利用者数が減少したことに加え、8 月以降は週 3 日前後の利用を想定した利用者の増加、体調不良等での欠席の増加が平均利用者数が低いことの要因となっている。

利用者の障害種別は知的障害が最も多く、全体の 7 割を占めている。また精神障害は 2 割、身体障害・手帳未取得の方が全体の 1 割程度となっている。ミラークよこすかの特徴として、時期によりこの割合の変化が大きいことがあげられる。昨年度（2017）と比較すると知的障害の方の割合は 1 割程度低下し、精神障害、身体障害の方の割合が高くなっている。利用者の年齢層については、10 代から 50 代までの方が利用されている。割合としては 20 代が最も多く全体の約 6 割を占め、次いで 10 代の利用者が多く、若年層の利用が圧倒的に多い。定期的に 30 代以上の方の利用もあり、職歴があることもあって比較的早期に就職により退所される方が多い。

横須賀市内には、京浜急行線と JR 横須賀線が通っており、ミラークよこすかは京浜急行の横須賀中央駅まで徒歩 5 分程度と比較的通所しやすい環境である。ただ、JR 横須賀線は最も近い横須賀駅でも徒歩 20 分程の距離となっている。利用者の居住地としては、近隣からの利用が圧倒的に多い。最も多いのは、半数以上を占める横須賀市内からの利用である。次いで、横浜市金沢区が約 2 割となっている。その他の地域からの利用は 1～2 名程度で傾向等は見受けられない。上述の JR 横須賀線への利便性が良くないこともあり、JR 横須賀線沿線である逗子市や鎌倉市からの利用者は少ない。

表 1.月別利用者動向 就労移行支援事業（前年度実績）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
新規利用	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (2)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (3)	13 (11)
退 所	就労	1 (2)	1 (1)	0 (1)	1 (0)	3 (2)	0 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (12)
	その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	4 (1)
利用者数	17 (18)	17 (19)	17 (18)	16 (18)	18 (20)	15 (18)	17 (15)	15 (15)	12 (12)	14 (12)	13 (11)	14 (13)	

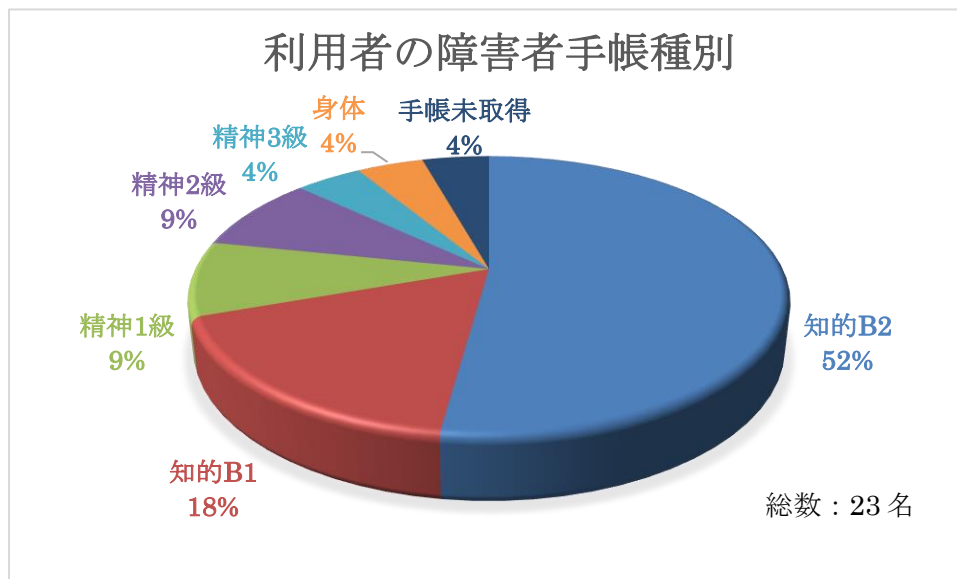


図 1.利用者障害種別（2017 年度中に利用実績のあった方）

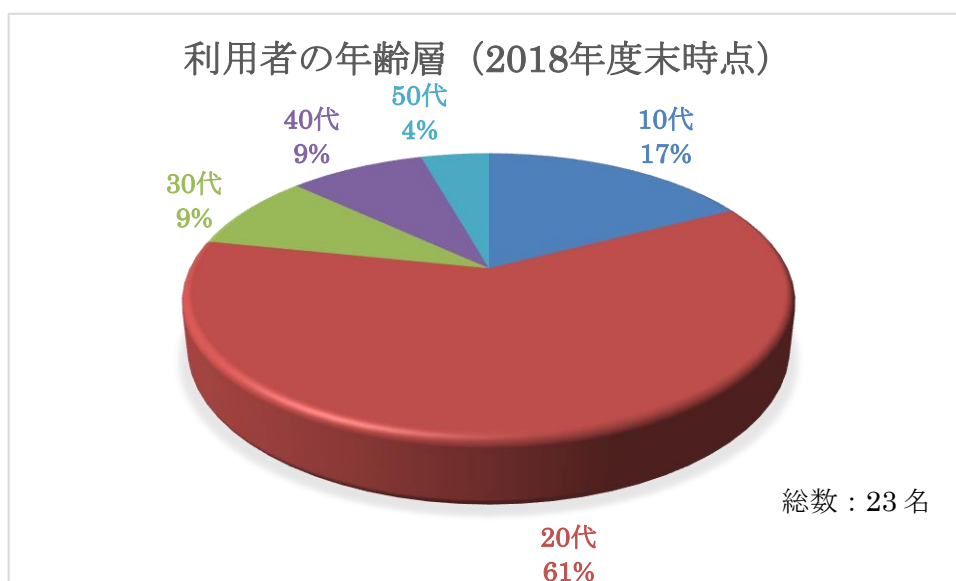


図 2.利用者の年齢層（2017 年度中に利用実績のあった方）

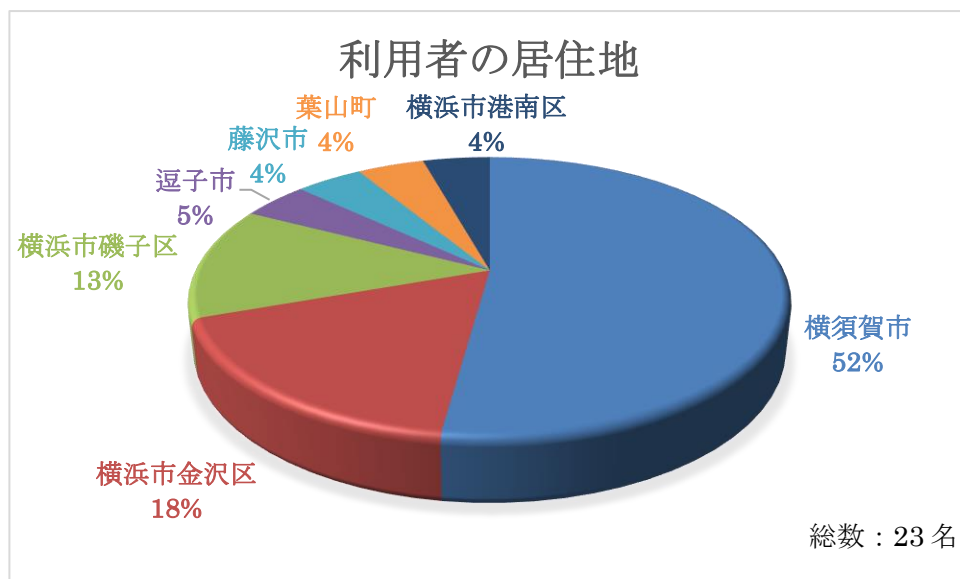


図 3.利用者の居住地（2017 年度中に利用実績のあった方）

■ 就労アセスメント

2018 年度は、5 名の就労アセスメントを実施した。就労アセスメントは、就労への可能性を評価することを目的に 1～2 週間の期間で実施している。利用契約締結については、横須賀市・横浜市居住者については締結したが、鎌倉市については市の方針により利用契約を締結せず実施している。

表 3.就労アセスメントの実施状況

紹介先	人数	居住地	人数
養護（特別支援）学校	4 名	横須賀市	3 名
自治体	1 名	横浜市金沢区	1 名
		鎌倉市	1 名

② 訓練プログラム

I. 訓練のスケジュール

訓練は月曜から金曜（祝日を除く）9時から15時までとしている。

9:00～9:15	体操・朝礼	12:45～13:45	訓練
9:15～10:30	訓練	13:45～13:55	休憩
10:30～10:45	休憩	13:55～14:55	訓練
10:45～12:00	訓練	14:55～	終礼
12:00～12:45	昼休憩		

II. 訓練内容

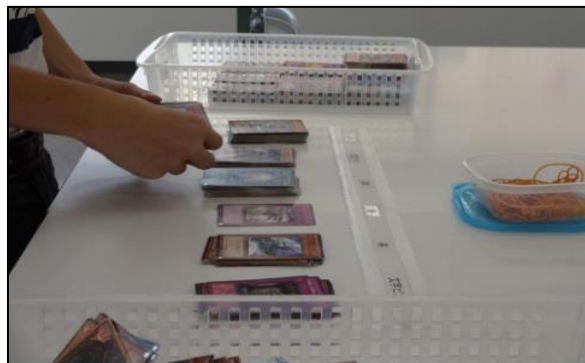
➤ 作業訓練

作業訓練は軽作業ワークサンプル（6 種類）、事務作業（PC 作業含む）、環境整備（清掃、備品管理等）、外部からの受注作業を行っている。

【CD】



【トレーディングカード】



【ビーズ】



【納品チェック】



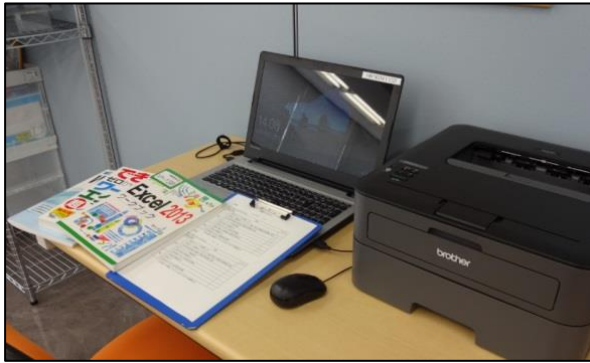
【ピッキング】



【メール仕分け】



【事務】



【環境整備】



【受注作業】



➤ 施設外作業

近隣の店舗で清掃等の作業を請け負っている。

➤ 講座

各講座は3ヶ月で全12回（隔週プログラムは全6回）開催し、年間4サイクル実施している。受講講座は選択制とし、利用者本人の希望や課題感について職員と話し合いの上決定する。また、3か月ごとに状況に合わせて受講内容を見直す形をとっている。

<講座一覧>

講座名	開催頻度	講座のねらい	内容
ビジネスマナー スタートアップ	毎週開催	基礎的なビジネスマナーの習得	「挨拶」「身だしなみ」「話し方」「社会人としての心がまえ」など、ビジネスマナーの基本を講義と練習で学びます。
ビジネスマナー ステップアップ	毎週開催	ビジネスマナーを自身の強みとする	職場でふさわしい言葉づかいや態度、飲み会でのマナーなど、場面に応じたビジネスマナーを講義と練習で学びます。
楽しく元気に働くための生活講座	毎週開催	自立した生活送るための力の習得	生活するためのお金や、働くための生活リズムなど、暮らしの中で必要になることをシミュレーション形式で一緒に考えます。
コミュニケーション	毎週開催	コミュニケーション力に自信をつけるとともに良い人間関係を築くきっかけとする	相手と自分をどちらも大切にする「アサーティブコミュニケーション」を中心に学びます。身近な場面などから「ちょうど良いコミュニケーション」とは何か考え、会話練習を行います。
ディスカッション	隔週開催	コミュニケーション力の向上	決められたテーマについてグループで話し合い、話し合ったことを発表します。
色々な仕事を知ろう	隔週開催	就職先のイメージを作り	事務、販売、介護など、色々な仕事を動画などで学びます。実際に働いている人の1日のスケジュールや、仕事に必要な能力などを知り、就職活動に役立てます。
働く事例検討会	隔週開催	就職後のイメージ作り	働く上で実際にあった成功事例や失敗事例を紹介し、その事例についてグループで話し合います。
健康な体をつくろう！	隔週開催	体を動かす習慣を身に付ける	ウォーキングや室内でのトレーニングなどを行い、無理なく楽しく体を動かします。
スピーチ	隔週開催	人前で話すことに自信を持つ	好きなテーマで1分間のショートのスピーチを行います。人に良い印象を与える話し方や人の話を聞く態度を身に付けます。

➤ 就職活動ナビゲーション

就職活動にスポットを当てているプログラムで、2017 年度から日常のプログラムとして本格稼働し、それぞれの就職活動の進捗状況に合わせて実施をしている。

私の取扱説明書を作ろう（以下、トリセツ）、履歴書作成、面接練習は個別の取り組みとし、働く基礎知識講座は複数名のグループで実施している。実施頻度は利用者ごとに異なり、一人一人に対してスケジュールを立てて実施している。比較的、トリセツは週に 1 回の実施で 4～5 回程度で完結、面接練習は週に 1 回程度を継続的に繰り返し実施していることが多い。

トリセツを作成することにより自己理解を深めることができ、その結果として面接場面で自身のことを話す際の材料のひとつに一役買っている。また、実際には入社を希望する会社が未定の段階でも面接練習を行うことにより、想定される質問をスムーズに回答することや、所作・表情・話し方など基本的な部分ではあるが重要かつすぐに改善が難しいことについても時間的な余裕をもって対策をすることができている。

<実施プログラム>

《私の取扱説明書（トリセツ）を作ろう①》

自分のことを整理、確認することでこれから取り組むことを考えます

《働く基礎知識講座①》

働くことそのものや雇用条件等を知り、就職について現実的に考えます

《私の取扱説明書（トリセツ）を作ろう②》

面接や働き始めた時に配慮して欲しいこと等を伝えられるようにしていきます

《働く基礎知識講座①》

給与、社会保険等についての知識を身に付けます

《面接練習》

繰り返し面接練習を行います

《履歴書作成》

必要に応じてサポートしてもらいながら履歴書を作成します

《面接練習（実践編）》

実際に応募する求人情報を元に面接練習を行います

【スーツデイ】

ミラークよこすかでは、年に数回スーツ着用での外出プログラムを実施している。2018年度は障害者雇用を実施している企業 4 社にご協力いただき企業見学を行った。見学会では、働いている現場の見学に加え、経営者や人事のご担当者から社員に求めるもの等についてご講義いただく等、ミラークよこすかにとって重要なイベントとなっている。

＜見学にご協力いただいた企業＞

株式会社 京急ウィズ	様
株式会社 ファンケルスマイル	様
株式会社 崎陽軒	様
株式会社 日立ゆうあんどあい	様



【新プログラムの導入】

これまで利用者それぞれの状況や要望などに応じて、様々なトレーニングを実施してきた。あらかじめミラークよこすかに用意されているプログラムだけではなく、スキルの習得、モチベーション維持、精神的な安定を目的としたものなどをご本人と一緒に考え行ってきた。

近年、限定的な支援プログラムだけではニーズに対応できない場面が多く、都度個別対応を行ってきたが、個別の対応というのは場合によっては好意的に受け取っていただけない場面も出てくるであろうと危惧するようになっていた。また、就労移行支援事業を利用し 2 年間の期間内に就労できる可能性は比較的高いものの、病気からの快復段階にある方や長期の在宅生活を経て利用を検討している方などは、本格的にトレーニングを開始するまでの慣らし期間が必要なことが多く、都度の個別対応では利用検討時に利用後の状況をイメージしていただくことが困難であった。

そのような課題感から導入を決めたのが新プログラムである個別トレーニングである。自己研究やテーマ研究、文書転記などあらかじめ 6 個ほどのトレーニングを用意した。それに加え、ご本人の状況に応じて既存のもの以外を行っていただく場合もある。

これまで行っていた個別対応と同じような取り組みを行うことも想定されるが、事業所内で行う一つのプログラムとして位置づけることで、利用検討時からイメージしていただきやすく、既に用意されているトレーニングであれば体験利用の際にも行っていただくことができるようになった。実際にプログラムとして開始すると、新規・既存利用者問わず取り入れてみたいという要望が多く、同プログラムを中心に行うだけでなく、1 日の中で 1 時間程度リフレッシュや気持ちの切り替えとして設定する方もいる。また、テーマ研究やミラーク新聞など、成果物を掲示したり、発表する機会設けることで、参加者のモチベーション維持にも一役買っている。

<個別トレーニング>

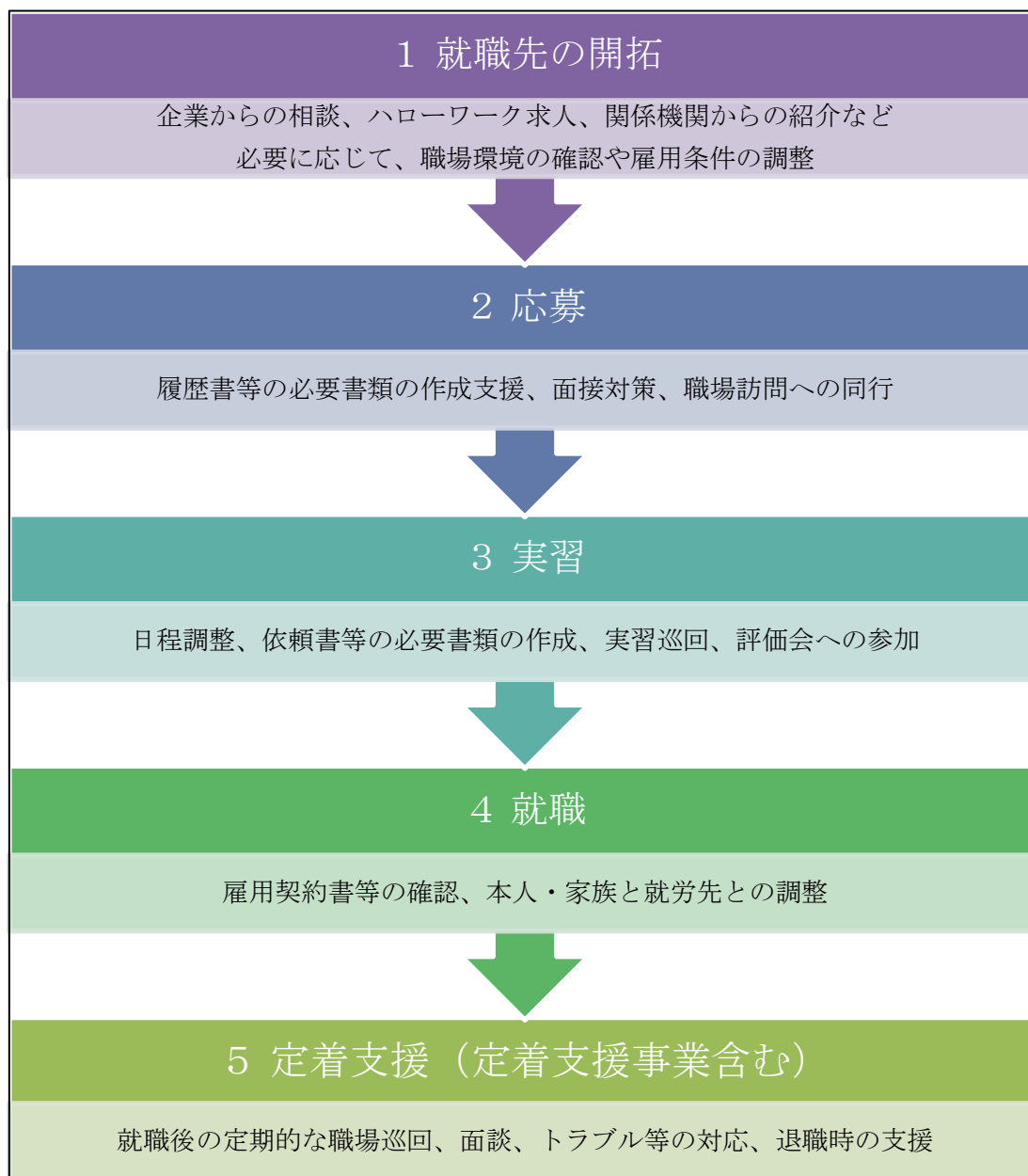
トレーニング名	内容とねらい
美文字	業務日誌や履歴書をきれいに書けるようにする
自分研究	自分事を知り、面接でのアピール材料とする
テーマ研究	情報を自分で調べてまとめる力をつける
ミラーク新聞	構成や内容を自分で考え、時にはチームメイトと協力して作成する
News チェック	ニュースに興味を持ち、気になるニュースをまとめて日トン説明する
文章転記	見本通りの書き写すことで集中力をつける
その他	上記以外のもので、相談に応じながら設定していく

③ 就労支援

I. ミラークよこすかの就労支援の流れ

ミラークよこすかの就労支援は、基本的に以下の流れで実施している。

一般就労を果たした方は、採用に伴いミラークよこすかを退所することになるが、就職後の支援もミラークよこすかが中心に行う。



II. 2018 年度の就労実績

2018 年度は 9 名の利用者が一般就労を果たした。9 名の就労者については、就労後 6 か月までは就労移行支援事業上の定着支援を行い、それ以降については後述する就労定着支援事業を利用いただいている。

表 4.2018 年度の就労実績一覧

	就労先	仕事内容	就労移行支援事業利用期間
1	株式会社 T	廃棄物分別業務	1 か月
2	株式会社 H (特例子会社)	清掃業務	14 か月
3	株式会社 N	清掃・庶務業務	15 か月
4	M 株式会社	食品製造業務	15 か月
5	M 株式会社	食品製造業務	16 か月
6	株式会社 K	栽培加工業務	20 か月
7	株式会社 I	食品販売加工業務	8 か月
8	株式会社 K	食品製造業務	6 か月
9	株式会社 Y	釣具製造業務	17 か月

(2) 就労定着支援事業

2018 年 4 月に「一般就労へ移行した障害者について、就労に伴う生活面の課題に対し、就労の継続を図るために企業・自宅等への訪問や障害者の来所により必要な連絡調整や指導・助言等を行うサービス」として、就労定着支援事業が創設された。同事業は、就労後 6 か月から 3 年 6 か月を対象とした障害福祉サービスとなっている。(就労から 6 か月未満は就労移行支援事業の定着支援期間と位置付けられている)

ミラークよこすかは、2018 年 7 月より同事業を開始した。事業開始にあたり、対象となる就労者全員に事業の概要や利用の流れについてご説明を行った。2019 年 3 月末時点で 29 名の方にご利用いただいている。

2018 年度中はミラークよこすかからの就労者の全員が定着支援事業の対象である就労後 3 年 6 か月未満の方であった。次年度以降、定着支援事業の期間終了者がいるが、引き続き期間を定めずミラークよこすかが定着支援を行っていく。

月別の契約者数と支援者数

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約者数	13名	21名	24名	24名	25名	25名	26名	29名	29名
支援者数	13名	21名	22名	24名	25名	25名	26名	27名	29名
支援率	100%	100%	92%	100%	96%	100%	100%	93%	100%

契約者数：ミラークよこすかの就労定着支援事業をご契約いただいている人数

支援者数：ご契約いただいている方の内、該当月に支援を受けられた人数

就労定着支援事業での支援とは、ご本人にお会いしての対面支援が原則となっており、上記支援者数は月内に対面支援を行った人数。

【ミラくる】

ミラくるはミラークよこすかが開催している就労者を対象とした交流会である。前年度は1回のみの開催であったが、2018年度は開催頻度を多くし、計3回開催した。就労者同士並びに、就労支援担当以外の職員との貴重な交流の機会となっている。

<各回の参加者数>

7月開催：20名参加

10月開催：25名参加

3月開催：27名参加



【離職の状況】

2018年度は1名が離職し、就労から1年以内の離職となった。離職の状況や支援の経過を振り返り、可能な限り上手く働き続けられる支援を行えるよう支援力向上に努めていきたい。

<開所以降の就労者の状況>

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	合計
就労者数	4名	9名	12名	9名	34名
離職者	0名	1名	0名	1名	2名
在職者（2019年3月末現在）	4名	8名	12名	8名	32名
在職率	100%	88%	100%	88%	94%

3. 2018 年度事業目標

重点目標	● 就労定着支援事業を開始するとともに、事業実施のため行政機関との調整や対象者への丁寧な説明を行います。 ● 平成 31 年度に安定経営を実現することを目指し、平成 30 年度は広報活動とネットワーク拡大に向けた活動を重点的に実施します。 ● 年度内の第 3 者評価の受審に向け、利用者・ご家族等に理解を得るとともに、準備を滞りなく行います。
1) 就労移行支援事業 (20 名定員)	● 新規利用者 12 名を受け入れます。 ● 1 日あたりの平均利用者数 15 名を目指します。 ● 年間 8 名の就労者を輩出します。 ● 8 名の利用者に施設外実習の機会を提供します。 ● 障害者就業・生活支援センターやハローワーク等と連携しながら、横須賀・三浦地域での職場開拓に取り組みます。 ● 就労後を見越した支援として、支援プログラム内で就労定着支援事業の概要説明等を実施します。
1) 就労定着支援事業	● 就労定着支援事業の事業内容等を早期に把握し、滞りなく事業実施をします。また、就労前や就労開始時を中心に対象者・ご家族等へ丁寧な説明を行い、事業内容をご理解いただけるよう努めます。 ● 就労後 1 年間の定着率 90%以上を目指し、ご本人、企業と連携するとともに丁寧な支援を心がけます。 ● 同窓会を始めとした就労定着支援者を対象としたイベントの開催方法を検証します。
2) 運営全体	● 新規利用者獲得に向けて近隣の普通高校等を訪問し、新たなネットワーク構築を図ります。 ● 学校や特定の支援機関等、対象を絞った事業所見学会の開催を検討します。 ● ポータルサイトを活用した広報活動に着手し、利用者獲得や知名度向上を図ります。 ● 日々のミーティング等で、支援や苦情内容の振り返りを行い、事業所としての支援の在り方を適宜検証していきます。 ● 年間 15 名以上の実習生を受け入れます。 ● 事業所内における災害ゼロを目指し、職員・利用者共に安全に対する意識向上に努めます。 ● 支援スキル向上や定着支援事業を始めとする制度知識の習得、並びに業務遂行スキルの全体的な向上のため事業所内研修を実施します。また、経験年数や役職に応じて個別にフォローアップや成長の機会を職員に提供します。

